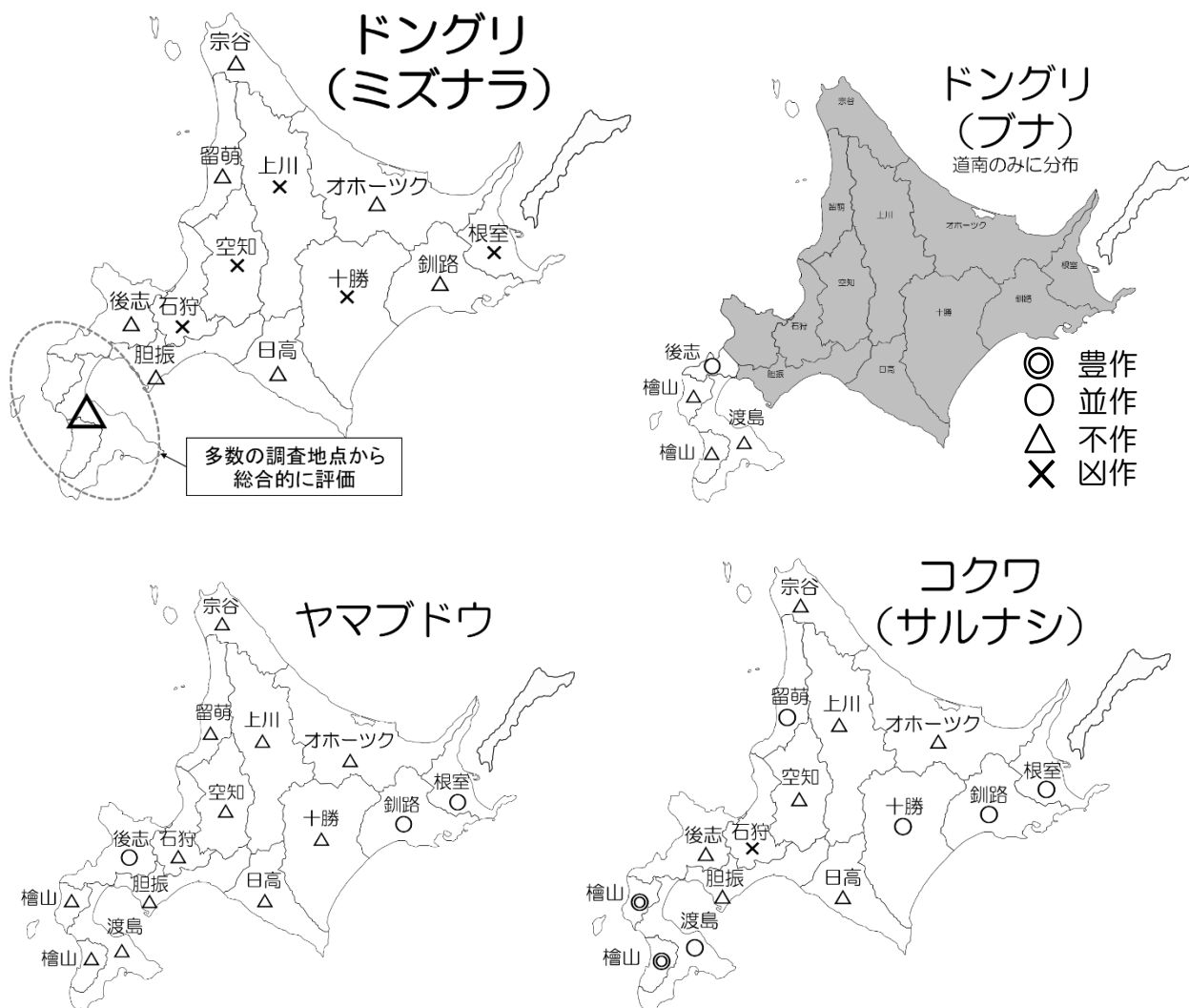


令和5年秋の山の実なり調査結果について

- **ヒグマの秋の主要な食物4種の実なり**の豊凶状況を調査した結果、広範囲で**ドングリ（ミズナラ及びブナの堅果）、ヤマブドウが不作**で実なりの悪い傾向がみられました。**コクワ（サルナシ）は半数の地点で不作あるいは凶作**で、残りは豊作～並作でした。
- 秋の食物が不作凶作の年には**ヒグマは食物を探して広範囲を活動するため、人間の生活圏への出没頻度が増える**と考えられます。**ヒグマに十分な注意が必要です**。
- 人身事故を防ぐため、次のポイントに留意して下さい。

- ① 生ごみ等の放置など、ヒグマを誘引したり定着させたりする原因をつくらないようにしましょう。
- ② 農地で作業する際は、ヒグマの痕跡（足跡やフン）がないか十分に確認するとともに、廃棄農産物を農地内に残置しないようにしましょう。ヒグマが出没している可能性がある場合は、警察、市役所・町村役場に通報しましょう。

図1 ヒグマの秋の主要な食物4種の豊凶状況



【調査方法】

豊凶に関する調査方法として、

- ① 定点で実施した調査に基づく数値的なもの（定量的情報）
 - ② ある地域における観測者の目視による経年比較に基づくもの（定性的情報）
- の2種類の情報を収集しています。

＜ドングリ（ミズナラ）：定量的情報（一部定性的情報含む）＞

渡島半島地域は、大学演習林、地方独立行政法人北海道立総合研究機構が実施した20か所の調査地、北海道森林管理局及び道（総合）振興局職員が実施した27か所の調査における調査結果により総合的に評価。

渡島半島地域以外は、北海道森林管理局、道（総合）振興局職員、市町村、自然環境保全団体、大学演習林等が実施した289か所の調査地における調査結果。

＜ドングリ（ブナ）（道南地域のみ分布）：定性的情報＞

大学演習林、北海道森林管理局及び道（総合）振興局職員が実施した30か所の調査地の定性的情報。

＜ヤマブドウ及びコクワ（サルナシ）：定性的情報＞

大学演習林、北海道森林管理局及び道（総合）振興局職員が実施した265か所の調査地の定性的情報。

【解説・注意事項】

- 秋（10月～12月）におけるヒグマの市街地や農地への出没の多寡は、その時期の主要な食物の生育状況と関係があると考えられています。道では、秋のヒグマの主要食物のうちの4つ、2種のドングリ（ミズナラ及びブナの堅果）、ヤマブドウ及びコクワ（サルナシの果実）の実なり状況について、関係機関等の協力を得ながら平成17年から調査しています（参考過去6年の結果：図2～5）。
- 今年の調査の結果、全道でドングリ（ミズナラ及びブナの堅果）、ヤマブドウが不作で実なりの悪い傾向がみられ、コクワ（サルナシ）は半数の地点で不作あるいは凶作、残りは豊作～並作でした。（図1）。
- 堅果類等の実なりには地域差があります。また、本調査は限られた地点での結果に基づくものです。ヒグマ出没には本調査対象の食物の豊凶以外の要因もあるので、ご注意ください。
- 道（総合）振興局職員の調査は、保健環境部環境生活課職員と森林室職員の調査になっています。

【豊凶状況の表示変更】

- 令和元年度から北海道森林管理局及び道（総合）振興局森林室職員の調査協力が得られたことで、各振興局管内で広域的に豊凶状況を確認できるようになったことから、令和2年度より市町村単位から振興局単位で豊凶状況を評価するとともに、3段階（豊作、並作、不作～凶作）から4段階の豊凶状況の表示に変更しました。

図2 ドングリ（ミズナラ）の豊凶（H29～R4）

渡島半島地域は、多数の調査
地点から総合的に評価

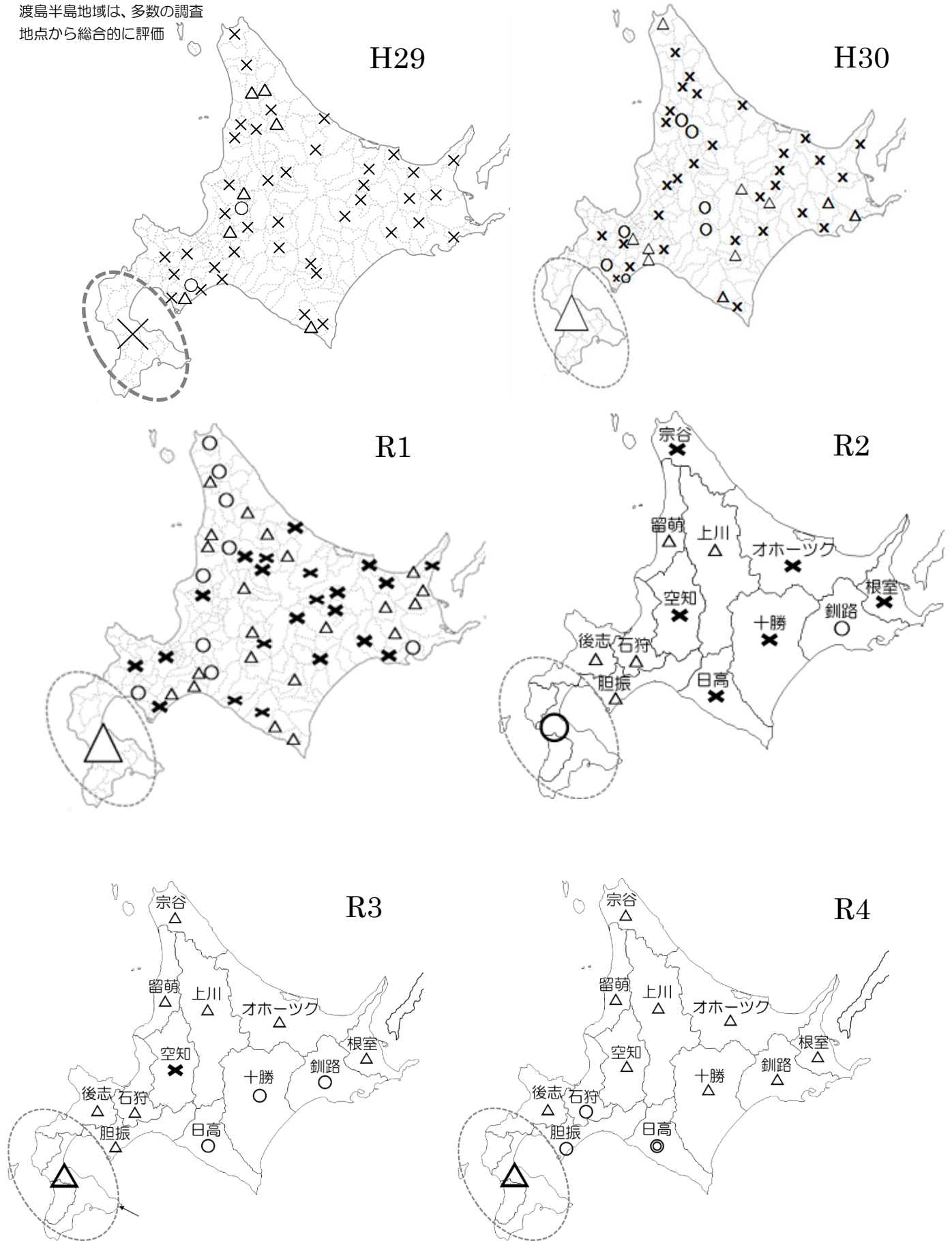
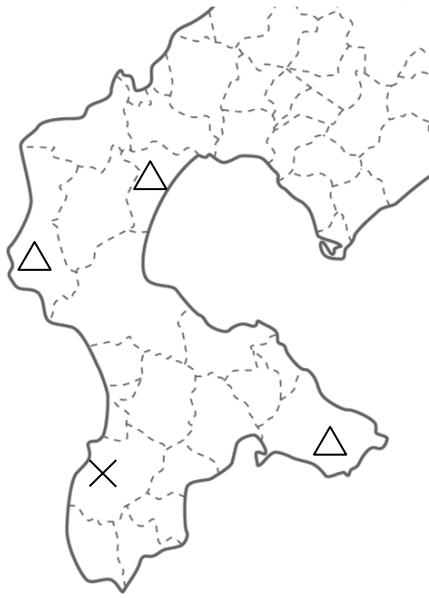


図3 ドングリ（ブナ）の豊凶（H29～R4）



H29



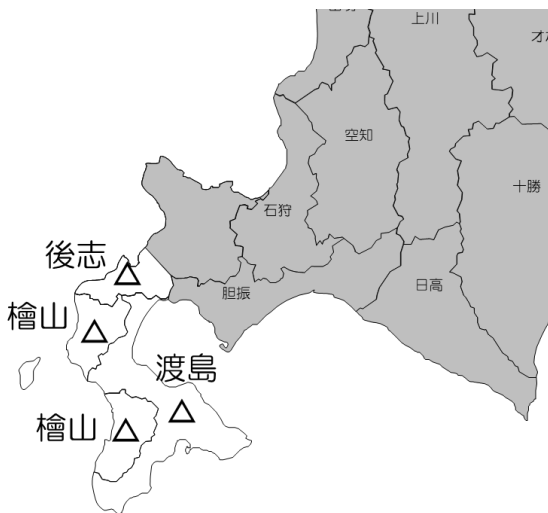
H30



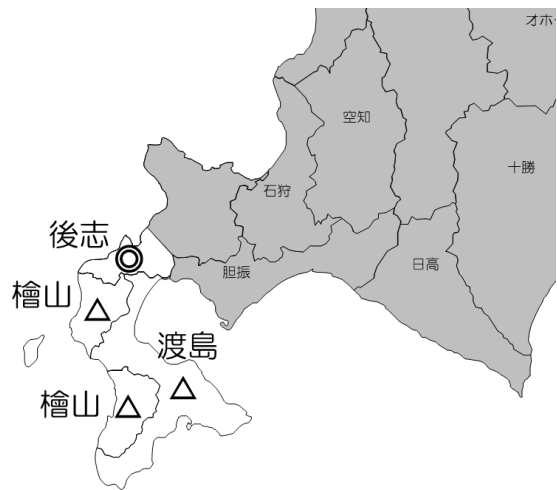
R1



R2



R3



R4

図4 ヤマブドウの豊凶 (H29~R4)

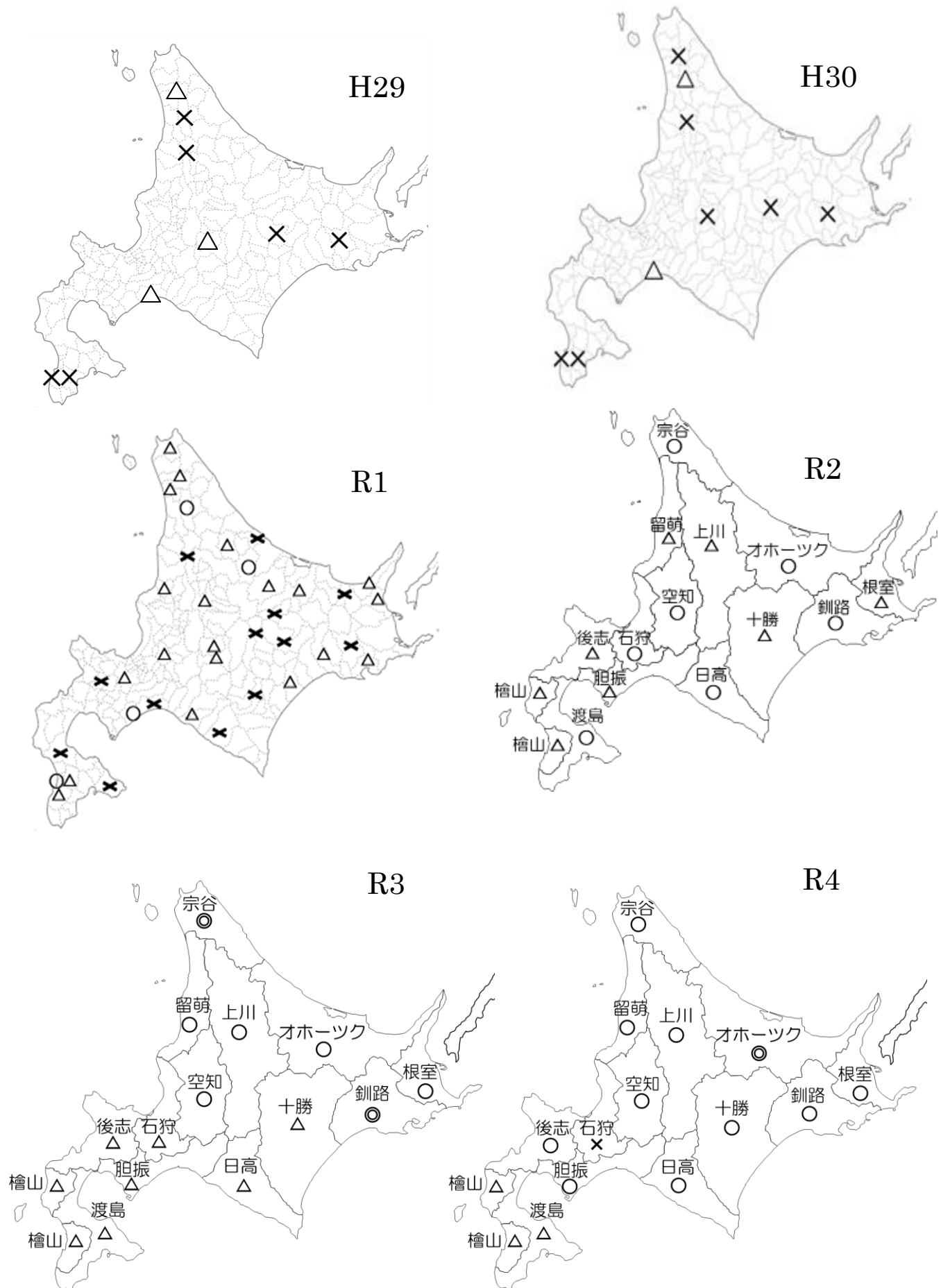


図5 コクワ（サルナシ）の豊凶（H29～R4）

